

Musicology and Theatre Studies 音楽学・演劇学専修

この専修では、音楽、演劇、芸能などのいわゆる表演芸術（パフォーミング・アーツ）の研究が行われています。音楽学の分野では、世界諸地域の芸術音楽、伝統音楽、大衆音楽などの幅広い領域にわたって、音現象そのものの研究にとどまらず、それぞれの背景にある文化や思想の研究も含む幅広い研究が展開されています。演劇学の分野では、日本の古典演劇から西洋の現代演劇までの、狭い意味での演劇ばかりでなく、世界各国の映画、オペラ、ミュージカル、ダンス、そして芸能を含む幅広い対象を扱っており、それらの実証的かつ理論的な考察を通して、その芸術の美的特質や芸術史的、民族的特徴を理解し、さらにパフォーマンスの原理や本質を解明する試みがなされています。これらの領域を対象として扱っている大学の文学部は他にほとんどなく、本専修はこれらを人文学の一環として研究することのできる数少ない場所となっています。音楽や演劇の研究をする上で、実演の経験は必須ではありません。でも、観客として対象をみるだけでもったいないので、どういう立場であれ、なんらかの「現場」に深く関わる意欲を持った学生を歓迎します。

教員

いとう・のぶひろ
伊東信宏 教授
わじま・ゆうすけ
輪島裕介 教授
なかお・かおる
中尾薫 教授
ごご・なおこ
古後奈緒子 准教授
よこた・ひろし
横田 洋 准教授
すずき・せいこ
鈴木聖子 准教授
いとう・なび
伊藤寧美 講師
すぎもと・わたる
杉本 亘 助教

<https://musicologyosaka.wordpress.com> (音楽学)

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/theatre> (演劇学)

何を学んでいるの？

音楽学

音楽は古代から超現代まで、そして洋の東西を問わず、人間の文化には必ず見られます。言葉や自然の物音も含め、これら全てが音楽学の対象です。それぞれの音楽について、適切な方法でアプローチし、それが人間にとってどのような意味を問うています。

演劇学

演劇は古代ギリシャ以来、およそ2500年の歴史を持ちます。古代ギリシャ悲劇からコメディア・デラルデ、能、シェークスピア、人形浄瑠璃、歌舞伎を経て、イブセン、チャーホフなどモダン・ドラマ、そして多様な現代演劇に至る流れを学びます。

どんな授業があるの？

【講義題目】

歌舞音楽の近代：

日本の非西洋系大衆音楽
クルターグ「遊び」の実践
現代英国演劇史
日本古典演劇と名所

【演習題目】

音楽学研究室総合演習
パフォーマンスを実践する
観劇実習
エイズと演劇
『八帖花伝書』巻六・七を読む

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

〈音楽ロボット論〉

——テクノロジーと音楽が交錯する暮らしから語りかけると自作の歌で答えてくれるAIロボット、チャーリーを題材に、実際に一緒に暮らしてみた会話記録などをたどり、我々の生活がAIによってどんなふうに変わってゆくかを考えた。(選：伊東信宏 教授)

【卒業論文題目】

高知よさこい祭りと「よさこい系」
ストリート・ピアノで交差する人々
——現代日本の公共空間と音楽
アラン・レネ監督『ヴァン・ゴッホ』(1948) 研究
宝塚歌劇団星組公演『阿豆流為一ATERUIー』
(2017) 上演研究

語りえぬ音楽への関心・情熱を言葉にします。

音楽学

どんな研究をしていますか？

ライブハウスと、フジロックに代表される大型ロックフェスティバル、バンドが主催となって開催されるロックフェスティバルの三者の関係を分析しています。ロック音楽そのものはもちろんのこと、それが鳴らされている場にまで視野を広げて学習しています。

研究室を選んだ理由

音楽を趣味ではなく学問として学んでみたいと考えたためです。ロックなど多様な音楽ジャンルを学ぶことが出来るのも決め手でした。

Y. T. さん (学部生)

どんな研究をしていますか？

近代イギリスの作曲家ハーバート・ハウエルズの研究をしています。チューダー朝の音楽に大きな影響を受けた彼は、当時としては珍しいクラヴィコードのための作品を残しました。資料集めに奔走しながら、少しずつ音楽を読み解く毎日です。

研究室の雰囲気は？

一人ひとり専門分野が異なる、個性豊かな人々が集います。話す度「音楽にはこんな世界もあるのか!」という驚きと発見が尽きません。

M. C. さん (博士前期課程)

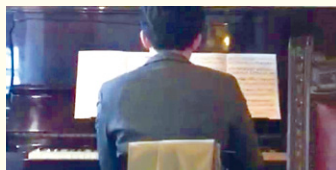
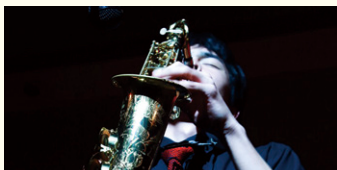
どんな研究をしていますか？

近代フランスの作曲家シャルル・ケクランの研究をしています。彼は自ら脚本を書き、写真集も出版するほどでしたので、その足跡を辿るには音楽外の見識も必要です。今はケクランの映画メディアへの関わり方に注目しつつ、20世紀前半の「音楽とメディア」の相互作用について考えています。

未来の後輩へ

音楽を共通項に雑多なテーマで研究が行われます。音楽学の現場にあふれる興奮を味わってほしいです。

S. K. さん (博士後期課程)



さまざまな演劇を多様なアプローチで研究します。

演劇学

演劇学に入った理由は？

今まで好きなように鑑賞するだけだった演劇や映画の仕組み、価値についてきちんと研究してみたいと思ったからです。他大学を見ても希少な専修だという珍しさにも興味が沸いて受験期の頃から志望していました。

学生たちの雰囲気は？

皆さん多様な形で演劇が大好きなので、劇場に足を運ぶフットワークの軽さや変わったものを受け入れるおらかさを持つる印象です。同じ作品の話題で先輩後輩が盛り上がったりもして、かなり居心地いいのではないのでしょうか。

K. Y. さん (学部生)

どんな研究をしていますか？

『源氏物語』と関わりのある演劇について研究しています。今興味があるのは、古浄瑠璃の『江州石山寺源氏供養』という作品。史料も少なく、難しく感じていますが、院生の方々からアドバイスをいただきながら頑張っ進めています。

後輩へのメッセージ

少しでも演劇に興味がある。そんな方は演劇学研究室の門をくぐってみてください。「演劇」と一言にいても、舞踊、映画、古典芸能など、幅広い分野が研究対象です。様々な作品に触れることで自分の世界が広がります。

Y. Y. さん (学部生)

演劇を研究する醍醐味は？

私はもともと演劇を作る側にいましたが、この研究室で演劇を「研究」として深く学んでみて、作品が生まれる背景やその社会的な影響に気づきました。作り手側からは分からなかった演劇の別の一面を知ることができ、視野が広がったと感じています。

どんな授業がありますか？

伝統芸能から近現代の西洋演劇、ダンスなど幅広い分野の授業があります。中でも特徴的なのは、「観劇実習」。予習したうえで多様なジャンルのプロの公演を鑑賞しに行きます！

F. Y. さん (博士前期課程)

